

# 大志を育む



平成 28 年 5 月 25 日

(教職員向け)  
教育委員会だより  
No. 2

発行：北広島市教育委員会

## 北広島市では、平成30年度からの小中一貫教育導入をめざしています！

平成 30 年度、全中学校区において「小中一貫教育」を導入することをめざし、取組がスタートしました。各学校におきましても、推進委員会等を組織し、中学校区内の学校同士で、小中一貫教育推進について具体的な協議が進められています。小中一貫教育を進めるにあたり、私たちは、「今なぜ、小中一貫教育なのか」「子どもたちの確かな成長のために、どんな取組が必要なのか」を理解する中で、より実効性ある取組を創造し、実践に移していくことが重要になります。

5 月 13 日に開催された、文部科学省の武藤久慶氏による「小中一貫教育講演会」で学んだことを参考にしながら、北広島市の子どもたちの確かな学びを保障する小中一貫教育を創り上げていきましょう。

### 今なぜ、「小中一貫教育」なのか!?



#### 発達の早期化

- 心・体の成長、思春期等の早期化
- 興味関心の多様化
- 個人差の拡大

- より興味・関心に応じた指導の必要性
- より専門性が高い指導の必要性
- より多くの大人が多様な視点で関わる必要性

#### 生徒指導上の問題への対応

- 学年が上がるにつれて
- いじめ、不登校、暴力行為等が増加
- 自己有用感・自尊心等の減少
- 学習上の悩み増加

- 学年段差の見直しの必要性
- 学習・生活指導での系統性、連続性、一貫性

#### 社会性育成機能の強化

- 世帯構成の変化～少子、母子・父子世帯、共稼ぎ世帯の増加
- 学年単学級の増加、学校規模の縮小
- 地域との関わり希薄

- 社会性育成の必要性
- 多様な人間関係の中で学ぶ機会の創出
- 地域との関わりの中での成長

#### 各学校単位だけの困難さ認識

- 社会情勢、生活状況、学力格差等への対応の難しさ
- ▽個々の教師だけで
- ▽各学年の結束だけでの難しさ
- ▽学校単体での不十分さ
- ▽連携だけでの不十分さ

- 地域、家庭と一体となった一貫した継続的な教育が必要

## 今年度は、教育計画づくりを進めます

それぞれの中学校区で、児童生徒の実態や学校の組織体制、家庭・地域の実情等を踏まえ、一貫した取組を創造していきます。これまで小中連携で進めてきた活動を発展させたり、先進校から学んで新たな取組を創り上げるなど、教職員が英知を結集して、子どもたちの「確かな学び」のための教育計画づくりを進めていくことが大事になります。

以下、武藤氏が講演会で話された取組例について紹介します。

#### 【異学年交流の工夫】

- ◆児童会と生徒会のつながり・・・合同会議、合同のいじめ撲滅集会や平和集会、小中合同挨拶運動など
- ◆生徒と児童の交流学習・・・6・8年生の職場体験報告会、5・7年生の英語学習、4・9年生の算数学習、中学生の小学生への読み聞かせ、合同体育・音楽、合同の放課後学習や長期休業中の補充学習、合同の行事・総合的な学習、部活動体験など
- ◆地域行事への参加・貢献・・・地域行事の合同での企画運営、合同ボランティア活動、交通安全運動、地域と一体となった合同防災訓練など
- ◆PTAの交流・・・合同研修、学習・生活習慣定着のための取組、小中統合して一つのPTA組織とするなど

### 【教職員の相互交流・研鑽】

- ◆教職員の合同研修・・・授業づくり・学習生活規律・教育環境等に関わる研修、生徒理解や生活指導のための引継ぎの充実、教科あるいは分掌ごとのミニ研修、各種調査の合同での分析など
- ◆相互乗り入れ授業・・・小学校教師の中1授業への乗り入れ、中学校教師による小学校でのより専門的な授業の実施、相互乗り入れのTT指導、小学校教師の部活動補助など
- ◆高学年教科担任制・・・数学・理科実験・英語・体育・音楽などより専門性の高い教科での一部教科担任制など

\*小・中学校お互いのよさを学び、授業改善や学習習慣確立等に生かすことが大切

### 【学習・生活規律、教育環境の一貫性】

- ◆授業スタイルの穏やかな統一・・・めあて・目標の提示、解決方法の流れ、まとめと振り返りの設定、黒板掲示（課題・まとめ）の工夫による板書スタイル（ノート記述）の統一化など
- ◆学習環境を整える・・・発達障がいの子への配慮（教室前の壁の掲示物、黒板の表記は授業に関係するものだけに統一、時計とチャイム、机上の乱れ、私語など集中の妨げの改善）など
- ◆中学校区スタンダード・・・学習・生活面での約束遵守や習慣づくりのためのスタンダード確立と定着
- ◆ICTの活用・・・学ぶ意欲と理解度向上をめざすICTの有効活用の継続など

### 【学習の系統性・連続性の確保】

2つを合わせた形のものが理想

- ◆教科指導計画の編成・・・
  - 9年間の学習内容とその関連がわかる教科ごとの系統表の作成
  - 課題やつまずきを克服するための方策や重点を明確にした指導計画の作成
- ◆道徳・特活・総合等の計画・・・9年間の全体計画作成、ねらいの統一、重複した活動や系統性の整理など
- ◆キャリア教育の推進・・・9年間の全体計画・指導計画作成・実践、夢ノートの実践と小中間のつながりなど
- ◆学年毎の学習定着度の把握・・・「つまずきチェックリスト」（各学年の学習内容の定着を計るテスト）による個々の実態把握、体力テストの個人カルテ（9年間の記録）の小中継続した活用など

### 【学習方法の指導の一貫性】

- ◆勉強の仕方の継続した指導・・・勉強の仕方がわからない子どもの実態把握、個々への学習法の指導など  
【例】□学習法3つのパターン～①ボンヤリ眺める ②ノートに書き写す ③自己テストをする  
□精緻化方略～「思い出したい情報」に理由や根拠などの「複数の別の情報」を付加する学習法
- ◆家庭学習の定着・・・自学ノートの取組（計画、ページ指定、コメント、当日返等）、学年段階に応じた家庭学習時間の設定、小中合同「家庭学習の手引き」、放課後の自主学習時間の設定など
- ◆テスト・評定等の工夫・・・一貫した通知表、高学年での一部教科の定期考査実施、小学校と中学校の評定の違いへの対応など

### 【スムーズな中学校への移行】

- ◆学年進行に応じた工夫・・・小学校高学年での中学校的指導の段階的な取り入れ（一部教科担任制、部活動体験、一部教科の定期考査、自治的な活動等）、小学校中学年までの基礎基本や学習規律の徹底、将来的には学年区切りの工夫など
- ◆区切りを意識した学校行事・・・2分の1成人式（小4）、立志式（中1）、修了面接、卒業論文など
- ◆小6の中学校への登校・・・定期的な1日登校日を設け中学校で学習、中学生と小6の交流など
- ◆合同行事の工夫・・・小学校高学年と中学生の合同行事、特別支援学級の合同行事など

以上、参考にしながら、それぞれの中学校区の実態に即した取組を創造していきましょう！